

今福龍太 [文化人類学者、批評家] × 太田昌国 [民族問題研究、編集者] 対談

ラテンアメリカ 映画の革命

ブラジルーポリビアーキューバ
「闘う映画」が私たちに問いかけるもの

日時：2018年6月26日（火） 19：00（開場18：30）～21：00

会場：クラブヒルサイドサロン

参加費：2,000円（クラブヒルサイド会員1,500円／会場で現代企画室の本を購入された方1,000円）＊ワンドリンク付／要予約

参加申込・問合せ：現代企画室（担当：小倉） tel. 03-3461-5082 / gendai@jca.apc.org



ブラジル映画史を彩る数々の名作の魅力をたっぷりと紹介する映画論にして、作品の背景となる社会、歴史の混血性を縦横に論じたブラジル文化論でもある今福龍太の名著『ブラジル映画史講義—混血する大地の美学』。

その刊行を記念して、これまで数多くのラテンアメリカをめぐる書物を編集・執筆し、ポリビアのウカマウ集団と映画の共同制作を続ける現代企画室編集長、太田昌国と今福龍太が対談します。

ともにラテンアメリカを主要な対象として活動してきた二人が、本格的に言葉を交わすのは今回が初めて。それぞれがこよなく愛するブラジル、ポリビアの映画談義に始まり、ラテンアメリカ映画の強靱な表現が同時代の世界に与えた影響、その背景にあったキューバ革命など、話題はさまざまなテーマに及ぶでしょう。1960年代、70年代に眩い輝きを放ったラテンアメリカの「闘う映画」たちは、変容しつづける世界に生きる私たちに、いま何を問いかけるのでしょうか。聴きどころ満載の対談です。ふるってご参加ください。

今福龍太『ブラジル映画史講義
—混血する大地の美学』

2018年5月刊行 定価2,700円＋税
編集・金子遊 発行・現代企画室



いまふく・りゅうた | 文化人類学者、批評家。
東京外国語大学大学院教授。巡礼型の野外学舎「奄美自由大学」主宰。著書に『クレオール主義』『ミニマ・グラシア』『群島 - 世界論』『レヴィ=ストロース 夜と音楽』『薄墨色の文法』『書物変身譚』『わたしたちは難破者である』『ハーフ・ブリード』など。



おおた・まさくに | 民族問題研究、編集者。
現代企画室で人文書編集に携わる一方で、民族問題を軸にラテンアメリカの政治・文化・歴史について発言、執筆を続ける。著書に『ペルー人質事件』解説のための21章』『チェ・ゲバラプレイバック』『〈脱・国家〉情況論』『アンデスで先住民の映画を撮る』（編訳）など。

[会場地図]



ヒルサイドテラス・アネックス B 棟 2F
東急東横線「代官山」駅徒歩3分
渋谷区猿楽町30-2 Tel. 03-5489-1267
<http://www.clubhillside.jp/access/>